いのちの光のうちで

ピースハウスふれんず

March 2017

Issue Number 22

ごあいさつ 3
ピースハウスの役割 4
ホスピス ―さまざまな出会い― 5
ホスピス教育研究所活動報告 8
ピースハウス活動報告 10
収支報告・寄付報告 11

シンボルツリー：花水木

ごあいさつ

昨年４月、日野原記念ピースハウス病院として再開以来、１年が経過しました。このように本誌をもって皆さまに当院の１年間の活動についてご報告できることを心より感謝いたします。

私の手元にはピースハウス病院の毎日の状況が「日報」として報告されてきます。再開以来、地元のご支援とあわせ、近隣の医療機関からの紹介もいただき、当院の病床が有効に利用され、当地の医療に役立つことができることを嬉しく思っております。

1993年に開設以来23年目にして、１年間の病院休止という大きな試練をくぐり抜けての再開でした。病院運営も軌道に乗るまでは、西立野院長、桐ヶ谷看護師長をはじめとする医療スタッフ、管理・運営に当たるスタッフ、そしてボランティアの方々のご苦労はたいへんなものであったことは察するに余りあります。

1911年生まれの私は2016年10月に105歳になりました。医師になってからでも80年近くを経たことになります。この間、病む人を慰めたい、病む人の役に立ちたいという思いは変わらずに私の心の中核をなしてきました。そして、ピースハウス病院は、私の所期の夢を実現する大切な場の一つでもありました。

この度、ピースハウス病院は幸いに大勢の皆さんのおかげで再スタートを切ることができました。従来の病院とは異なる「ピースハウス（安らぎの家）」と名づけたイメージのもとで開設準備に着手したのは1985年のことでした。そしてその８年後にホスピスケアを担うための一歩を踏み出したピースハウス病院です。これからも皆さまのお力をお借りして、よい働きを続けていきたいと心より願っています。

2017年３月

一般財団法人　ライフ・プランニング・センター
理事長　日野原　重明

ピースハウスの役割

理　念

ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時をともにする人は皆それぞれの生き方を尊重する。

基 本 方 針

1）痛みなどの心身を悩ます不快な症状が緩和され、患者と家族がその人らしく時を過ごすことができるように、患者と家族の希望する場において、全人的ホスピスケアを提供する。

2）愛する人を失う悲しみや、その他の心身の反応は自然なことと考え、ケアを始めた時から死別後まで、家族への支援を行う。

3）患者と家族のニードに応えるために、多職種の職員とボランティアでチームを構成し、協力してケアを提供する。

4）日本の実情に即したホスピスのモデルとなるように、より良いケアの実践、研究、教育を進める。

2016年４月１日改定

日野原記念ピースハウス病院として活動を再開してから１年が経とうとしています。ここまで来ることができたことを喜んでいます。

再開の礎は、教育研究所（松島たつ子所長）、訪問看護ステーション中井（田中美江子所長）、そしてボランティアの会（志村靖雄コーディネーター）が、ピースハウスを再開したいという強い意志を持ち続けて、中井地区で活動を継続してきたことです。

また、再開に当たっては地域医療振興協会の援助を仰ぎ、事務長と常勤・非常勤医師の派遣を受けました。独り立ちできるまでの伴走をしていただき、大変感謝しています。

必要最小限の「スリムな」人員体制での再出発でしたが、これは日本の一般的な体制ともいえます。限られた人材で標準的緩和ケアを提供することです。どこでも、だれでも、普通の知識や技術、薬などを利用して、良いケアの提供を目指すことが大切だと考えますが、それが「余計なお世話」にはならないように心がける必要もあると思います。

緩和ケアの実践に加えて、教育・研修施設としての役割も重要です。皆様のなお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

日野原記念ピースハウス病院
院長　西立野　研二

ホスピスーさまざまな出会いー

ピースハウスは、小高い丘の中腹に建つ22床の小さな病院です。建物は、病院というより、少し大きめな家のような佇まい。そこに集う人と人の出会い、自然や動物との出会い、様々な出会いが、つらさや苦しさを和らげてくれることがあります。厳しい現実と直面しながらも笑顔が生まれるときがあります。それぞれの時が流れていきます。

ホスピスでの様々な出会いの場面を通して、ピースハウスの日常を紹介します。

事務室

患者さん、ご家族との出会いは、一本の電話から始まります。初めての電話、緊張や不安が伝わってきます。お気持ちを気遣いつつご用件を伺い、相談員へと繋げます。

受付ボランティア

数日後、入院相談のために窓口を訪れたご家族。初めての来院で戸惑っているようす。
受付のボランティアが声をかけ、少しほっとしていただけたようです。

ホスピス相談

院内の見学を終えたご家族。
院長、看護師長との面談が始まります。
患者さんのお体の様子、治療や療養生活への患者さんの期待、ご家族の思い、これからのことなど、じっくりと話し合います。

ナースステーション

入院された方の痛みや呼吸困難など、症状を評価し、どの薬を、どのように使うのが良いか、医師・看護師・薬剤師が検討しています。
薬に抵抗感を持っておられる患者さん、病状に一喜一憂しておられるご家族の思いを受けとめながら。

入浴の準備

入院したときは痛みが強く寝返りも大変だった方。痛みが和らぎ、今日は初めての入浴です。「温度はどれくらいがいいかしら」準備をする看護助手の心も少し晴れやかです。

ベッドメーキング

患者さんのお体の様子や動ける範囲などを考慮してベッドやマットレスを交換します。
入浴中に部屋を掃除し、手際よくシーツを交換。ハウスキーパーの一日は大忙し。患者さん、ご家族が少しでも気持ちよく過ごせますように。

食事をつくる

20人ほどの食事の準備。でも、お一人おひとり、食べられる量、硬さや大きさは異なります。ご飯ではなく麺類なら食べられる方、スープやシャーベットを希望される方にはいつでも提供できるように。患者さんご家族にとっての「食」の意味に思いを馳せます。

ティータイム

初めてラウンジに出てこられた患者さん。
お隣の方との話が弾んでいるようです。
生活環境の異なる二人がホスピスで出会い、言葉を交わす。いろいろな話題が次々と。
お二人の姿から「今、ここで」の出会いの大切さを学びます。

在宅へ

症状が緩和してご自宅に帰ることになった患者さん。「今後は、緩和ケア外来に通院しながら、できる限り家で過ごしたい」とのこと。看護師の訪問が始まりました。
何か困った時には相談し、必要な時には入院できる場があることは安心につながるようです。

病室で

一日の始まり。患者さんと看護師が今日はどんなふうに過ごすのか相談しています。
症状が和らいで笑顔がみえるようになり、午後のアートプログラムへの参加、面会のご家族とのティータイムも楽しみになってきたようです。

ホールにて

午後、ホールでは音楽や絵画、編み物や俳句など、ボランティアが様々なプログラムを準備しています。
ホールの正面には、雪に覆われた雄大な富士山。右手には早咲きの桜。美しい自然の姿に心が安らぎます。

ホスピス教育研究所活動報告（2016年4月1日～2017年2月28日）

1．人材育成講座の開催〔2016年４月～12月〕

【ホスピスセミナー】

■終末期患者のケアは大変！？－困難とやりがいのある現場－
期　日：６月25日（土）　　参加数：66名
内　容：１）ケアの現場で直面すること　　２）終末期のケア－なぜ困難を感じるのだろう－
　　３）死をみつめることでみえるもの－私のエンディングノート－
　　４）仕事を続ける力　　５）困難を乗り越える
講　師：松島　たつ子（ピースハウスホスピス教育研究所 所長）
　　齋藤　亮子（元 弘前医療福祉大学保健学部看護学科 教授）

■がん患者の家族のケア　－揺れ動く家族の思いを受けとめ、支援する－
期　日：９月10日（土）　　参加数：20名
講　師：田村　里子（一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所 理事）

■在宅緩和ケア－住み慣れた地域で暮らし、旅立つ－
期　日：11月12日（土）　　参加数：45名
講　師：奥野　滋子（湘南中央病院 在宅診療部 部長）

■認知症のある高齢がん患者への緩和ケア－精神症状の理解とケアの実際－
期　日：12月10日（土）　　参加数：49名
講　師：小川　朝生（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 科長）

【ホスピス緩和ケア講座】

■１）がんと共に歩む患者・家族への支援－患者・家族の直面する課題と緩和ケアチームの働き－
２）がん患者の食事に関する支援　－治療期から終末期まで－
期　日：７月23日（土）　　参加数：25名
講　師：松岡　みちる（小田原市立病院 緩和ケア認定看護師）
　　稲野　利美（静岡県立静岡がんセンター 栄養室 室長）

■がん患者とリンパ浮腫－リンパ浮腫の理解とケアの実際－
期　日：９月24日（土）　　参加数：38名
講　師：奥　朋子（千葉大学付属病院 看護師長 がん看護専門看護師）

■－皮膚・排泄ケア認定看護師に学ぶ－ がん患者のスキンケア
期　日：10月15日（土）　　参加数：38名
講　師：舛田　佳子（神奈川県立がんセンター 皮膚・排泄ケア認定看護師 ）・平澤　真弓（同 皮膚・排泄ケア認定看護師）・関　宣明（同 皮膚・排泄ケア認定看護師）

【ボランティアアドバンスト講座】

■ピースハウス病院の目指すものとボランティアへの期待
期　日：７月19日（火）　　参加数：34名
講　師：西立野　研二（日野原記念ピースハウス病院院長）

■１）感染予防対策について　　２）ボランティアとナースの連携を深めるために
期　日：11月15日（火）　　参加数：30名
講　師：赤丸　智子（日野原記念ピースハウス病院看護部）他３名

■１）感染について：結核を中心に　　２）ピースハウスにおける食事の役割を考える
期　日：2017年１月17日（火）　　参加数：27名
講　師：平野　真澄（日野原記念ピースハウス病院栄養部）他５名

2．第24回ホスピス国際ワークショップの開催

期　　日：2017年２月25日（土）・26日（日）
テ ー マ：喪失と悲嘆－悲嘆ケアの専門家とともに考える－
講　　師：Prof. Danai Papadatou（国立アテネ大学健康科学看護学部 臨床心理学教授）
　　Dr. Amy Yin Man Chow（香港大学福祉学部 助教授）
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：木澤 義之（神戸大学大学院医学研究科先端緩和医療学 特命教授）
内　　容：第１日目
・大切な人を亡くした子どもとその家族への支援－子どもが体験する喪失と悲嘆－
・生命を脅かす疾患に直面している子どもへの支援－病とともに生きる子どもたち－
・危機状況にある子どもへのケアの実際－重篤な病とともにある時、大切な人を亡くす時－
第２日目
・緩和ケアに従事する専門職の苦悩－ケアする人の喪失と悲嘆－
・個人の知識・技術・価値観を超えて－多職種で一緒に働く－
・緩和ケアにおけるチームの力－レジリエンスの視点－
・ケアと私－自己への気づきとセルフケア－
参加人数：77名

左：Prof. Danai Papadatou
右：Dr. Amy Yin Man Chow

3．研修生の受け入れ

■ホスピス体験実習（計９名）：麻布学園麻布高校(2)・伊志田高校(1)・秦野曽屋高校(6)
■笹川記念保健協力財団 日本財団ホスピスナース研修会（45名）

4．研究会の開催

■ Study　Day：2016年９月～2017年２月（６回）
テーマ：１）フォーカスチャーティングについて学ぶ－フォーカスの当て方－
２）看護に活かす痛みの理解①　－がん性疼痛－
３）看護に活かす痛みの理解②　－皮膚転移・骨転移などの痛みの理解－
４）看護に活かす痛みの理解③　－神経障害性疼痛の痛みの理解－
５）最期の時まで最善のケアを
①根拠を持った臨死期のケア　　②グリーフケアにつながるエンゼルケア
６）エンゼルメイク
延参加人数：54名
■地域緩和ケア研究会　高齢者ケア部会：2016年６月・10月・2017年２月（３回）
テーマ：１）①薬局薬剤師の在宅への関わり方　　②病院薬剤師の立場での地域連携
２）認知症のある方をどう支援するか
３）がん患者・家族が遭遇する課題とその支援　－相談支援の実際と地域連携－
延参加人数：93名

5．オープンハウスの開催

期　間：2016年11月・12月
内　容：ピースハウス病院の見学、ホスピス緩和ケアに関する意見交換など
延参加人数：78名

6．ピースハウス見学への対応　17件　104名

主な団体：足柄上病院、海老名総合病院、小田原市立病院、北里大学病院、小田原医師会地域連携室、
神奈川県医療ソーシャルワーカー協会、小田原看護専門学校 他

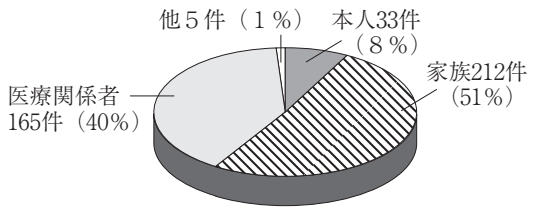
7．機関誌発行

ピースハウス活動報告（ふれんず Issue No.22）　2,000部

ピースハウス活動報告（2016年4月～12月）

相談状況

相談件数：415件



ピースハウス病院　入退院状況

(1) 入院患者数　152名（再入院６名　計158名）
(2) 男　女　別　男72名　女80名
(3) 年　　齢　平均73.7歳
(4) 平均在院日数　26.12日　中央値14日
(5) 疾　　患　（悪性新生物原発部位）

肺	28	子宮	8	肝	4
膵	15	直腸	8	口腔	3
結腸	13	咽頭	7	膀胱	3
胃	12	卵巣	7	その他	14
乳房	11	食道	5	計	152
前立腺	9	盲腸	5		

(6) 紹介元医療機関

東海大学医学部付属病院	45
平塚市民病院	16
東海大学医学部付属大磯病院	13
神奈川県立足柄上病院	12
小田原市立病院	11
平塚共済病院	8
神奈川病院	7
秦野赤十字病院	3
静岡県立がんセンター	3

〈以下２件〉
国立がん研究センター中央病院、済生会平塚病院、東名厚木病院、山田クリニック、大和市立病院（順不同）

〈以下１件〉
神奈川県立がんセンター・丹羽病院・他22施設（順不同）

(7) 患者住所分布

神奈川県	150	東京都	2	計	152

(8) 県内内訳

湘南西部		県西部		その他	
秦野市	26	小田原市	28	厚木市	7
平塚市	25	足柄上郡	19	横浜市	2
中郡	23	南足柄市	7	他	7
伊勢原市	5	足柄下郡	1		

訪問看護ステーション中井

【訪問看護実績】

(1) 利用者数　66名
(2) 男　女　別　男30名　女36名
(3) 年　　齢　30歳代～100歳代　中央値80歳
(4) 介護度平均　要介護２
(5) 対象主疾患

	（名）	（％）
がん	14	21
非がん	52	79

(6) 転　帰

	（名）	（％）
継続	42	64
終了	24	36

ピースハウス病院入院	2
他院入院	6
自宅で死亡	9
その他	7

【居宅介護実績】

(1) 利用者数　45名
(2) 年　　齢　40歳代～90歳代　中央値80歳
(3) 介護度平均　要介護３
(4) 対象主疾患

	（名）	（％）
がん	12	26
非がん	33	74

(5) 転　帰

	（名）	（％）
継続	30	67
終了	15	33

ピースハウス病院入院	2
他院入院	3
自宅で死亡	6
その他	4

ご　支　援　の　お　願　い

ピースハウス病院は、ホスピスケアを専門とする独立型ホスピスです。病床数22床の小さな施設ですが、病院として機能する為には、施設設備・人材は病院と同様の基準を満たす必要があり、運営を継続するためには経済的負担が大きな課題です。

ケアを必要とする方々にホスピスケアを提供していくために、１人でも多くの方へホスピスケアを継続して提供できるように、皆様のご支援をお願い申し上げます。

１．寄付の種類

１）運営のための寄付

任意の金額を提供していただく方法です。皆様からのご寄付はピースハウスにおけるホスピスケアのために役立てられます。

２）「ピースハウス友の会」

ピースハウス病院の活動に賛同し、「友の会」の会員となって、年会費という形で継続的にご支援いただく方法です。会員としては、次の４種類があります。

さくら会員：１万円	ばら会員：３万円	はなみずき会員：５万円	かとれあ会員：10万円以上

＊１年にいちど、活動報告をお送りするとともに会員継続のご意向、会員種別の変更有無についてお伺いいたします。

２．寄付の方法

ご寄付いただける場合は、下記までお振込みください。お手数ですが、振込みに際しましては、通信欄に「運営のための寄付」か「友の会 ○○会員」かをご記入ください。

郵便振替口座	00130-６-407939
加入者名	㈶ライフ・プランニング・センター　ピースハウス募金口

【問い合わせ先】

担　当：ボランティアコーディネーター　志村 靖雄
電　話：0465－81－8900
E－mail：y-shimura@peacehouse.jp

2016年収支報告

４月から12月まで９か月間の入院患者数は158名、平均在院患者数は、14.7人、平均ベッド稼働率は66.8％でした。

事業収入	221,752	千円
事業支出	199,222	
事業収支	22,530	
会費・寄付金収入	3,170	
当期収支（９ヶ月）	25,700	千円

2016年寄付報告

運営のためのご寄付	61件	1,520	千円
友の会会費	85件	1,650	千円
さくら会員	64件	640	千円
ばら会員	12件	360	千円
はなみずき会員	５件	250	千円
かとれあ会員	４件	400	千円
合計	146件	3,170	千円

一般財団法人
ライフ・プランニング・センター
日野原記念ピースハウス病院

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000－1
TEL　0465－81－8900　　FAX　0465－81－5525
ホームページ http://www.peacehouse.jp/

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 助成